

七月二三日

十四時半、J・グライターの「ニーチェと建築」レクチャー。ラビンスというアイデアの誕生を巡る講義だった。講義のレジユメを読み直してみたい。

グライターの講義を聞きながら思った事だが、彼は一時間半の講義の準備に一週間をかける。全て発言内容を原稿にして寸分違わずそれを述べる。私の講義が大方の筋は決めていたが、草稿無しのアドリブまがいのものであるのと比較すれば雲泥の差がある。要するに言葉に対する価値観が全く違う。少し計り考え直さなくてはいけないかも知れない。G・スタジオ、J・グライター最終クリティーク。学生の質は少し上がったように思うが、どうか。若松社長来室。ロシアに行こうという話。ビジネス・チャン스가彼なりにあるという嗅覚がそう言わせているのだが、今はそういう遊びのゆとりがないのが正直なところ。シエルターはこちらの都合で少し延ばして頂くことにした。安藤打合わせに同席させる。西早稲田コンバージョン打合わせ。ひろしまハウス打合わせ。終えて、若松氏と食事。二十三時世田谷村に帰る。スタッフ、院生の自主的な働きに少し任せてみようかと思う。

七月二四日

○時四十分。今日は広島出張の予定。広島市で講演会。その後前市長平岡さん等とひろしまハウスの打ち合わせ。力を尽くそう。

只今十一時四〇分のぞみ車中。名古屋を過ぎた辺り。講演のためのスライドを組み直し、準備は終えた。西へ向かうに連れて天気は回復し、久し振りに青空をみる。やはり気持は良い。今日はどんな人に会えるのかな。

十四時半広島全日空ホテル3F講演会場。広島湾ベイエリア・海生都市圏研究協議会総会の講演会。「海からの視点」を一時間半。十六時終える。最後に「ひろしまハウス」の募金を述べたので、百数十名程の参加者のなにかが箱にお金を入れてくれた。宴席で秋葉市長と会う。池田商工会議所会長と話す。その後平岡さんと再会。今、二十二時半ホテルに戻る。ホテルのBarで広島の人たちと少し計り飲んで戻った。ひろしまハウスのこれからはどうなる事かな。

何かをやり遂げるという意志とは少しばかりギャップがあると思うけれど、これ以上の事は望めないのも確かな事だ。こんなもんだろう。ただ連絡だけは定期的にとらなくてはならない。広島県とのコンタクトが始まった事は一歩前進だ。

七月二五日

七時半起床。まだ梅雨は明けない。昨日もらった「ひろしま平和貢献構想」報告書 祈る平和から創り出す平和へ、読む。プノペンのひろしまハウスが構想の中に位置づけられている。そう言えば昨日、講演会場で唐桑の「カキ研究所」におられた皆さんに再会できた。唐桑から広島へ移って、今は瀬戸内海水産研究所に居るとの事。懐かしい人に思わぬところで会えた。講演で話しながら思った事だが、唐桑では大変な事をやったんだな我々は。

佐藤和則に感謝しなくてはならない。和則は町長になって二期目だが、何をやるかな。何かに協力したいのだが、こちらも力不足

なのだ。分厚い黒雲で光も指さぬホテルの部屋でしばし考え込む。九時五二分、のぞみ一号で博多へ。十時五三分博多。忍田さんにお目にかかる。スラリとしてカラツとした仲々の人だった。車で浄水の現場へ。雨がザンザ降りだったが、雨の中で見た印象は仲々良かった。昭和二年に建てられた古い住宅が木々に囲まれて、ツタにおおわれてあった。家の前の持主篠原さんが家の内を案内して下さった。家の中は本当に良い家族が住み暮らしていた歴史がいたる所にあつて、古いホコリの匂いとともに痛切なノスタルジイの中に侵入してゆく感あり。この家には得も言えぬ愛情が棲んでいる。篠原さんもそれを知っている。又、忍田さんは女性の直観でその家に住みついている愛情の存在を嗅ぎとったのだろう。この浄水の土地にのめり込むように引かれたのはそれだからだ。現場を見てこの仕事は無理をしてもやってみようときめた。この土地には歴史が棲んでいるよ。篠原さんより、「種を蒔いたら、福が来たよ。」のタイトルが附された小冊子いただく。この家に棲んでおられた四宮種美・福子御夫妻とその四人の子供達の記録である。福子さんが亡くなった一九九九年に私家本として発行された。この土地の住人であつたお福さんは余程の人物だったように、それがお福さんをしのぶ子供達の様々な言葉やらに良く表現されている。とても良い本だ。この土地には多分そのお福さんの愛情が棲みついている、それで良く木が育ち、草々が家を守っているのだろう。福の神が居るんだな。高級住宅地の良い土地を忍田さんは選ばれた。

すぐ近くのイタメシ屋で昼食。忍田さんの家作りの話をうかがう。忍田さんの今の家を見た。この人は正直な人だ。食後、再び土地を見て福岡国際センターへ。御主人の忍田勉さんが主催するカンサイフェアを見学する。福岡国際センターは大相撲九州場所

の会場で、そこを一杯にして建築部材部品の販売プロモーションを開催していた。九州一円の卸業を営んでいるようだ。創業五十年、勉さんの父親が創業者である。忍田勉さんにもお目にかかった。エネルギーで明るい人物だ。これなら事業は拡大するだろう。そんな訳で、短い一日ではあつたが忍田夫妻に会って、御主人、奥さん、共にその人間を大体把握できた。良い一日であつた。この仕事は楽しんでやりたい。只今六時半過のぞみ28号が東広島を通過した。飛行機を避けて、わざわざのぞみで帰る事にしたのは、道中色々考えられるから。二〇時過京都。忍田邸は0シエルトの三番目のものにしてしよう。そのソーラー発電システム自体が御主人の(株)カンサイのシステムエンジニアリング商品になるように考えるのが合理的であろう。さてエスキスを始めようか。忍田邸、妙高寺エスキス。二十二時半頃東京着。さすがに疲れた。このところズーツと疲れが抜けていない。何とかしなくては。深夜世田谷村帰着。真栄寺の馬場照道と電話で話す。照道さんも健が居なくなつてポツカリ空白が空いたママかな。